工. 33.4.

新約聖書哥羅西書 全

Bible.

SCC.
8763

耶穌降生一千八百八十年

新約聖書哥羅西書

翻譯委員社中
米國聖書會社

明治十三年

日本横濱上梓

使徒パウロコロサイ人へおくりたる書

第一章

一 神のみむねによりて耶蘇キリストの使徒となりたる
パウロおよび兄弟テモテ 二 コロサイにをる
ところの聖徒となりたまへる兄弟たちへおくる。願くは
われらの父なる神および主イエスキリストより恩
寵と平康とをうけよ 三 我儕なんぢらがキリストイエスを信
ぜることとまたすべての聖徒をたのみまもることとを聞てなんぢら
の爲によいのるとき恒にもろもろの主イエスキリストの父なる
神よ 四 なんぢらが如此せんことを愛したまへるなんぢらに
なほ天にたくはへてあるところのその即ち

いんの眞理のことぞ此をうけきゝ、ところのものを望
がゆゑあり六この福音はせうしよねきがごとく爾儕にも
きたるより且なんぢらがこゝろをきゝて神のめぐみを眞實よ
さとりし日よりなんぢらのうちに果をむすびまたゝく大
よるまでごとく世界にも果をむすびて大よるより七このく
福音はエパフラスの愛まるあるじ役者エパフラスよりなんぢら
が學ところのものより又パウロスいるんぢらのためにキリスト
の忠信なるしもべより八彼さきになんぢらが靈よこんし
て懷るなんを又ときに告九このゆゑよりときより事をきゝ
し日よりなんぢらのためになてなど祈禱をしこのり求ねが

もろもろの靈のうちなるまことを
てこころごころ神旨をもり十まことのこと主をよろこばせ
んがため其みこころにもとづひて日をおくりまことその善
事よりて果をむすびもろ神をもるにようてやう徳を
まし十一また神のさづけの權威よもたづひて賜をもろもろ
能力をえて強もり凡事よろこびて恒忍もろ久耐十二また
まことをして光よあるせんとその業の分をうくるになもる者
ともろもろめたまふ父のめぐみを感謝せんことを十三もろもろ
暗のけんぬようてもとをもろを救いだしてその愛子のくにう
つしたまへり十四もともろその子よようて贖をもそも罪の

る〻をうるなり 十五 このまゝ人のみることをえざる神の狀よ
りてまさりその つくりまし ものゝ 先よりまし〻 をもなり
十六 そは彼よりて萬物 つくりまたり天よあるものゝ地上
よりあるものゝ人のみることをうるもの見ることをえざるもの
或いくるあるひは主たるものあるひは政をとる
ものあるひは權威あるものまさりその彼よりてつく
らをたり且そのつくりまたるは彼がためなり 十七 このまゝ萬
物よりさきよあり萬物このまよりて存ることをうるなり
十八 教會はこのまゝの身體まゝにて彼はその首なりこのまゝ元始よ
りてまさりそのことよつき長となるなんためよ死のなかより

ちぐめよ生〻ことのより廿九そん父はぺその德をもて彼よみ
てゝめその十字架の血よりて平和をゝ萬物まるもち
地上よあるもの天よあるものをゝして彼よりて已と中を
らぐゝむることん是そのみごてろよくるふことるをぺるり
三夫るんぢらいりと惡行をおこるふよりて神よとはぎ
うり心よそその敵とるれるをものるりゝぐ三神いまキリスト
の肉のこのくだをもてその死よりるんぢらをゝして已とや
もくぐせ潔淨うけるく咎るくゝて已のまへよたゝしめんと
を三をゝるんぢら信仰よとぐまりその基をさだめうり堅
ゝてふくいんの望よりうくぢん如此せくること得

べし。この福音はまづもちゐんぢらのきたるところあり且
またぞよ天下のまべての人よつたへきたり。これパウロその役者
となりたり〇二三今これをんぢらのためによろこぶ苦をよろこび
又これが肉體をもてキリストの體なるもち教會のためにその
患難のうけたるところを補ふ二五これをんぢらのために神
のたまふところの職よりたがひこの教會のつくびとなる
りてあまねく神のことばをつくさんとて二六此ことばは歷
世歷代をくまなる奥義なりしが今その聖徒にあらはれた
り二七神せのことをしりて異邦人のうちなるこの奥義のさ
かえのいかに豐なるをしらしめんとおもひたまへり。この奥義

いるんぢろのあろよつたくキリストあり彼はるんぢろの
のぞむところの榮光のぞこるり 二八 またまろ彼をつたへ各人
をまろめ諸般のちゑをもてひとびとを教ひとびとをしてて
キリストのうちよ全をえて神のまへよたしめんとなり 二九 我
こもまろだめよ大能をもてまろ衷よはたらく者のまたろき
よおろひ力をつくしてて勞まるあり

第二章

一 またまろんぢろおよびラオデキヤよをるひとびとまた
我にくたいよある面をいまだみざる人のためよまろ心をらう
まることいろぞろあるをるんぢろぢちんことを望ニまろこころ
を勞まるハこのまたろぢ心あいよりてひとつよあり疑をい

だらざる全さとりの富をえらつ父なる神とキリストの奥義
をしりて安慰をえんことを欲するなり 三 智慧と知識のた
くはへ一切キリストよこゝにあるなり 四 誰よそも巧言を
もてなんぢらを欺くことなからんために我これらのことを
いふなり 五 夫こゝに肉體にはなんぢらと離れをるといへども靈に
はなんぢらとともにをりて喜ぶんぢらが次序あるとキリスト
をうけんぢる信のかたきを見るなり 六 なんぢらはそも主キリ
ストいゑすを承けたまはれる彼よりてなほむべし 七 なんぢら
根をうゑよおき彼よりて徳をたて又をしへをうけたる
ところよ從てあんしんをうなくして此をまもりて大なるて

感謝せよ○八 なんぢら愼べ〳〵あそらくハキリストよおたがをだ人のつたへと世の小學よおなぢひ空言なる理學をもてなんぢらの心をうばふん 九 そは神のみちたまる德をことぐく形體をあつめてキリストよまめり 十 彼ハまべてのまつりごとと權威のかしらなり。なんぢら彼よありて全備をることを得なり 十一 なんぢら彼よりて手をもてせざるる割禮をうけ卽にくのからだをぬぎさるところのキリスト此のうちにいるり 十二 なんぢらバプテスマをうけて彼とともよ葬られまた死より彼をよみがへらせし神のはたらきを信ずるによりて彼とともよ甦らされたなり 十三 なんぢら前よを

もろ〳〵のつみと身よりはいるきっかけよりて死たるものあり。されど神あんおろをしてまべての罪をゆるし彼とともに生しめ十三のつ手よてある せ〳〵ところのこまごまをせむる規條のふを卽ちまことにさゝふものを塗抹こさをを中間よりとりさり釘をもてその十字架よつけたまへり十五又まつりごとをとるそろと權威あるものをはろぼし彼儕をまべてのものよ示し キリストよりて勝ほこれり〇十六この故よあるひい飲こと食ことあるひい節期あるひい月朔なるひい安息日のことよより人をしてあんおろを議せしむることなかれ十七こもろい皆きたらんとまろその影よし

てそのまことの形はキリストよつけり十八誰かくだることを
天使をはいすることによりてをんぎうの褒美をあざむ
きとらんとする人とそのそうびをとることをうるとき其のこ
とき人いまだ見ざるものをうべひ已のこころに志たが
ひて妄にほこり首につくことをせざるより十九全體こゝろ
らによりもろ〳〵の節と維をもて相たすけ相つらなり神
よそだてられて長をり二十二をしるんぎうキリストとともに志
にて世のせうがくよりさるときたらんまではるんぞ世にあり
て日をおくるものごとく人のいましめと教に志たがひ
捫るうるさ嘗るうるさ觸るうるさといふ律法の下にあるや。こゝさ

らの禁じたるそのハさべて人こまを用ゐてつくるなり 二三
これらの規條ハみづから縦ましくて拝をることをるし。このう
謙遜このう身をおしまざるよりて智慧あるそのハつくる
みものをども實ハなふときりのにあらで唯にくなハの慾をみ
ちたらしむるなり

第三章 既よるんぢらキリストと共によみがへりたれバ天
よりるものを求べしキリストこゝにありて神の右よざ
なまへりニるんぢら天よあるものをおもひ地よあるその
をおもふなれ三夫るんぢらハ死しものよそその命ハキ
リストと共よ神のうちよかくれをるなり四こゝろの命

るるキリストのあらはまんときにともにあらはるゝに榮のるゝにあらはるゝなり五此故になんぢらの地にある肢體をころせ姦淫汚穢邪情惡欲および貪婪をころせべし貪婪は偶像を拜するにひとしきものなり六これらの事によりて神のいかりきたるべきものなり七なんぢらもさきに斯のごとき人のるゝ日をおくりしときは此等の惡事をつねにおこなひたれども八さればなんぢら今はよべてこれらの惡事および恚憤忿怒暴戾をすて謗讀醜言をなんぢらの口よりもつべからず九なんぢらまぞる舊人とその行をぬぎてあたらしきひとを衣なまびたるひとは誑をいふるゝなし十

この新人はいよ〳〵あらたなる人をつくり〳〵もの〳〵像よ
あらはして知識よりいたるまで土このごとくにいたりて
ギリシヤびと〳〵ユダヤ人あるひは割禮あるものとうつまじわる
き者あるひは夷狄たるひはスクテヤ人あるひは奴隷あるひ
は自主の別なく〳〵夫キリストは萬物のうへにあり亦まべての
ものゝ中にたり〇土このゆゑによるんぢら神よりえらばれて
聖潔うつ愛せらるゝものとなりたる是を慈悲めぐみ謙遜に
うつ忍耐を衣よ土るんぢらたがひに容忍をるし〳〵人と
せむべきことあらばこれをゆるせキリストるんぢらを恕た
まへるごとくるんぢらも然をべし〳〵土此りうくの事のうち

よ愛をくゝりへよ。あんハ衆徳の帶なり　十五　なんぢらキリストの
たま〳〵平安をしてその心をつゝさゝしめよ。なんぢら一
體よありてこの平安よいたるべき召をうけむまりなんぢ
ら恩恵よこゝろぞべし　十六　キリストの道をしてなんぢらの心よ
とめて充足しめ。まべての智慧より詩と歌と靈ようんじ
てつくまる賦とをりてたがひよ相をしへ相さとめ恩恵よ
こゝろのうちよ神をさんびまべし　十七　なんぢらの
爲ところの諸事あるひハ言あるひハ行みな主イエスの名
のためよこれをなし彼よよりてちゝなる神ようんしやを
べし　十八　妻なるものよその夫よちたがふべし此ハ主よあ

るものゝ名を負きことあり 十九 夫あるものゝよその妻をあいをべし苦をもてこゝをあしらふなり 二十 子なるものゝよるんぢらもべてのこと二親よろたがふべし。こゝ主のよろこびたまふところあり 二一 父あるものゝよるんぢらの子をいつらまるるをもおそらくはその氣うるん 二二 僕あるものゝよをべてのこと肉體よつける 主人よろこぶべし人をよろこをまる者ごとくなら眼前のことをつとむることるく誠心をもて神をおそれてろたがへ 二三 るんぢら何事もひとよつふるがごとくせず、主よつかるごとく心よりこゝを行べし 二四 そへるんぢらハ主より報賞る嗣業をうくるこ

とをおるもののるべきなり。るんぢら主なるキリストよりふべし 二五 不義をおこなふものは亦その ふぎのむくいをうくべきを主はうたがひたまふことなし

第四章 主人なるものよるんぢらもまた天よ主あることをおもへ 義よおよび公平をりてその僕をあつかふべし ○ 二つねよ祈禱をなせ おこたりつつしみ感謝とともにこれをなせ 三 また神われらよ道をひらきて門をひらき我 儕をしてキリストのおくぎをうたがらしめ 四 我いふべきところのごとくこの奥義をあきらかにしめたまへんことをつとめよ 五 のなかよいのるべし 我このおくぎのためよつるがまはり

五 なんぢら機をうかゞひ智慧をもて外よりある人よりまづをるべし六なんぢらの言つねよ恩をもちゐうら鹽をもて調和べし。さらばいかまゝて各人よこたふべきことをしらん○七つゝしみ愛まる兄弟ちゝうまる役者これとゝもよ主よつゝふる僕テキコつゝ事をこゝろぐくなんぢらよ告しらせん八我このまゝを殊よなんぢらよつゝまれへ彼をしそなんぢらのことを知なんぢらのこゝろをなぐさめしめんためなり九また忠なるつゝしみあんたる兄弟なんぢらのうちよ一人なるオネシモをこゝれとゝもよ遣せり。このまゝ此處のことをもそしてぐくなんぢらよつげしらせん十我とゝもよつながるアリ

スタルコおよびバルナバの甥マコなんぢらよ汝をきを聞このマコのことよつくくいるんぢらまでよ命をうけたり彼もしるんぢらよいたらべこまを接べし十二ユストとるづくるイユスるんぢらよ安をとふ割禮をうけしものゝ中たゞこれ三人のくつまとせるよ神のくにゝためよはたらけり我このまでよりて安慰をえしまり十三なんぢらのうち此一人ようてキリスト耶穌のおりべなるエパフラスなんぢらよ汝をきを問このまでつねよるんぢらのためよ力をつくして祈禱をなしんぢらが完全をえ心をこのうらしてえ立まべそのこと神のむ

ラオデキヤ ヒエラポリよ あるところ〳〵たゝよ 甚こゝろを労する
ことを證を立 つゝまこゝろが愛する醫者ルカおよびデマスるんぢ
らよ安をとふ 主請るんぢらラオデキヤの兄弟たちとヌンパス
およびその家よある教會よ ゆをきをとく 其るんぢらそで
よこの書をよまべ ことをまたラオデキヤ人のけうくよい
よまた爾儕もまたラオデキヤよりきたる書をよめ 十七アルキ
ポよいくるんぢ主よありて受しところの職をつゝしみて
盡すことよ入つゝきパウロ親手るんぢらよ ゆをきを問るんぢ
らこゝまの縲紲をおもへ。ねがはくハ恩寵るんぢらとまれよ
アーメン

新約聖書哥羅西書終

PRINTED FOR THE AMERICAN BIBLE SOCIETY
聖書會社
米國
藏板